



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 71

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 71. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1958, 71: 23-29

ISSUE DATE:

1958-08-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186795>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 71

1958. 7月 (8月5日)

録 事

夏のおとづれと共に実験所も水族館も臨海実習や研究者や観光客の往来はけしくなり、多忙をさわめる。

UNESCO委託の海洋生産力に関する調査研究の半年度研究計画には当実験所の職員が委員として参画することになり、田辺湾の第三次調査が今月初頭より開始された。

まず手始めに、1日より5日迄の間、大阪学芸大学の中村秋甫助教授が学生6名を助手として来所され、CK型流速計の試験をおねて田辺湾の海水流動の観測を実施した。実験所と京都大学海洋学研究室との共同研究の補助助手として田辺定時制高校三年生の彦坂伸明君を1年間の約束で、7月1日より雇い入れ、毎日同君は田辺・東白浜間の巡航船を利用して採水・測温、プランクトン選別等の常時の仕事に従事している。

3月より着工の海水取入設備災害復旧工事は春の大潮時だけを利用しての工事であるため遅々として進まなかったが、新しく6月中に内径1.20m高さ2mの取入口が新設され、それより内径50cmのヒューム管による導水路約60mが地下に埋設され、更にこれにつながる内径1.8m地下7mに及ぶ汲上げ用地下水槽が海亀プールの外側に完成した。尚この汲上水槽の上に予定されているポンプ室と山上の配水用貯水槽に対する揚水施設は未完成である。

水族館内では各水槽の説明板を模様替えし、南水槽室の各水槽の上に新しく30×10cm及び20×5cmの2種類のプラスチック製半透明乳白色板(厚さ1.5mm)の説明板を随時付けめとめるようにし、水槽内の魚種の説明は水色のラッカーで記し、今迄記入されてなかった学名を小さく書き加えることにした。

また飼育水族の種別毎の採集時期・方法・数量、水槽中での飼料、自然での食物、飼育条件、病氣、採集場所、飼育可能の期間を記録するカードを調整した。

また野外での採集・観察、撮影の参考資料として潜水記録用紙も調整した。

宮地会長は7月12日より23日にかけてロンドンで開催される国際生物学連合第13回総会と第15回国際動物学会議に出席のため、10日空路渡英の途について。

英豪政府の査証がおりないためのびのびとなった大阪市立自然科学博物館の西南太平洋地域の科学調査に参加する筈の時岡委員は、いよいよ8月17日大坂港よりラバウルに向う便船を利用して、ニューヘブライス・ニューカレドニア両群島に向って出発することとなり、11月上旬帰国の予定である。

布地委員及び高松奨学研究生は東洋ナイロンテグス株式会社の委託によるナイロンテグスの釣糸の水中試験のため7月20日より26日の間愛知県常滑に出向した。

尚これを機として同親会社の東洋レーヨン株式会社より

佛国製アクアランク用ポンプ 2組

全 調整器 1個他

加地鉄工所製RT-1型コンプレッサー

(ヤンマー・エースT型エンジン付) 1台

の寄贈を受けたので、水族館で保有のアクアランクと共に保管することとなった。尚水族館もこれで潜水採集能力を倍加することとなった。

業 務 概 況

◎ 7月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
人 人	4323	31211	8352	62697	12675	93908
小 人	435	2638	349	1402	784	4040
団 体	8925	61682	—	—	8925	61682
合 計	13683	95531	8701	64099	22384	159630
無料入場者	清水校交換学習児童及保護者				240	466
団 体	： 一般 30組、学生 56組		計 86組			

◎ 7月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	388,100	2,894,633
予金預立金利子	31,148	262,148
雑 収 入	10,620	22,980
魚 菜 拂 下	—	6,340
絵はがき拂 下	19,260	317,600
計	535,700	6,553,274

◎ 7月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	72477	383,305	
会 議 費	860	47,121	
備 品 費	—	83,020	
消 耗 費	18,726	67,048	
率 業 費	56,430	302,217	
維持 費	14,705	35,365	南水槽壁説明立取付他
其他諸経費	3,677	250,348	
積 立 金	80,696	4,478,866	
合 計	247,571	5,647,290	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	10,000	6,000	作施委員
奨 学 金	8,000	3,200	
備 品 費	10,320	7,380	浮游生物分類学他
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	217,534	217,534	Publ. vol. 6, no. 3 刊行
役 務 費	—	—	
合 計	245,854	383,334	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	26,245	10,128	原田研究員旅費
備 品 費	—	5,102	
消 耗 費	—	431	
役 務 費	8,030	8,030	ローライマリン修理
合 計	34,275	16,650	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
絵はがき原板作成	5,500		
職員宿舍下外柵取付	2,500		
合 計	8,000	35,800	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	247,571	5,647,290
実験所経費	245,854	383,334
博物館経費	34,275	16,650
臨時費	8,000	35,800
計	535,700	6,553,274

◎ 7月末現在高

前月からの繰越	638,989
今月の収入合計	449,128
今月の支出合計	535,700
現 在 高	552,417

◎ 前年度との比較

	1957	1958	増	減
入 場 者 数	20366	22384	+	2018
売 上 金	360,215	388,100	+	27,885
文 献 金	486,867	535,700	+	48,833

水族館記事

- ◎ 7月1日畑島の砂浜深さ50C位の所でイザリウオ2匹着水によって採集し、別に入手した1匹を加え、水槽中で愛嬌を振りまいている。3匹とも淡灰、黄、赤と体色が全くちがいが、珍妙な姿態の上に、頭上にビラビラしたものを付け、餌となる小魚等をさそう様は教科書で知るだけの知識であるが、実際にその様子を観察するは始めてである。水族館の功徳といえよう。
- ◎ 7月18日入槽したソウシハギ(水棲 NO.19)は海草の生えた砂底に頭を下にして倒立する奇妙な習性があり、海草と区別をつけ難いので擬態の例としてあげられる。
- ◎ とれと反対に水槽 NO.11 にいれてあるテンスは後半身を砂にうずめ、前半身を砂上に出して休む奇妙な習性が面白く観察できる。個体によって体色が非常に異なるのも面白い。
- ◎ 2日ミノカサゴ1匹、6日タキベラ1匹、8日ツルグエ1匹、9日クマノミが1匹入槽し、タキベラは7日、クマノミは10日、ミノカサゴは4日と13日に死亡した。
- ◎ 25日アカウミガメが1匹捕えられて入槽し、現在海亀は10匹を数える。
- ◎ 上述の他に7月中に死亡した主なものの数を挙げると次の通りである。
オキトラギス2匹(1日)、ハマチ10匹(7-29日)、ネコザメ2匹(13-16日)
カノコイセエビ1匹(15日)、シマイシガニ1匹(25日)
- ◎ 夏の景物ミノカサゴ、クマノミ等少数入ったが多くは永生させず、付近の海を着水してみると今年はクマノミは比較的多いが、例年多く見られるツノダシは極めて稀のようである。

博 物 館 記 章

- ② 5日江津良海岸で採集された美しい三シキウミウシを標本として保存した。
- ② 13日漁師により持ち込まれた薄桃色の巨大な深海性のクマデトゲトサカを固定し、標本として展示する。

資 料

- ② 7月の気象 (9時観測)
南水槽室 (水温比重はN.O.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (13)	3	3	7
室 温 (°C)	$\frac{25.7 \sim 27.7}{23.7}$	$\frac{26.3 \sim 28.3}{27.7}$	$\frac{26.5 \sim 29.8}{28.3}$
水 温 (°C)	$\frac{25.10 \sim 26.10}{25.70}$	$\frac{26.10 \sim 27.06}{26.57}$	$\frac{26.12 \sim 27.83}{26.81}$
比 重 (0.9)	$\frac{25.40 \sim 25.58}{25.51}$	$\frac{25.02 \sim 25.58}{25.47}$	$\frac{23.86 \sim 25.44}{24.76}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{25.20 \sim 26.80}{26.08}$	$\frac{26.52 \sim 27.57}{27.10}$	$\frac{26.32 \sim 28.73}{27.16}$
比 重 (0.9)	$\frac{25.31 \sim 25.61}{25.52}$	$\frac{25.16 \sim 25.73}{25.59}$	$\frac{24.38 \sim 25.69}{25.13}$

来 訪 録

- 7月9日～15日 朝日新聞大阪本社福田滋、南村康弘、服部有人、千足操の4氏及び京大理学部修士課程大学院生児玉浩憲氏アクアラングの技術修得のため来館。
- 7月20日21日 米国水産鳥獣局貝類漁業担当官主任 John. Glude氏本邦の斯業研究状況視察の途次立寄らる。
- 7月22日 交換学習のため来白中の京都市清水小学校六年生児童170名、職員20名、保護者50名計約240名受入側の白浜第一小学校深見校長の案内で見学。
- 7月28日 東久邇氏夫妻は家族連れで池田厚子夫人も同行されて来館さる。

昭和33年8月5日 (No. 71)

編集兼
発行者

内海富士夫

発行所

瀬戸内海美濃新振興会
和可山泉白浜町
瀬戸内海美濃新内
(Tel. 白浜温泉 515)